

一、江戸詰人參宮仕、御國の直に罷歸候者は、下道御定之日限、御扶持方可被下事。

一、江戸詰の内煩、御暇申上罷歸候者は、御扶持方被下間敷事。

一、煩申儀相立御耳、御前より御暇被下者は、御扶持方引申間敷事。

一、致御供罷歸節、并代番に而罷歸刻煩申ものは、御扶持方可被下事。

右御定之通無相違可有裁許所如件。

萬治三年正月朔日 御印

奥村 因幡

前田 對馬

金澤御扶持方割所

### 九 少知之者御使之節路銀・宿賃御定

#### 宿賃御定

知行五十石以下御歩者並御使に被遣路銀・宿賃之覺

上道

一、主従共一日に三匁六分宛。

一、主従共一日に二匁三分宛。

一、御調物并岡廻に他國の罷越者、其所より五里之内に而茂、他所の參致一宿候儘成儀知候はゞ、路銀可相渡事。

御國使之刻御歩行並宿賃被下人數覺

一、六十石より百石迄 上下 三人

一、百五十石より二百石迄 同 四人

一、知行五十石より下切米取・御歩行並 上下 二人

以上

御歩行並之者

一、五十石より下切米取 上下 二人

一、六十石より百石迄 同 三人

一、百五十石 同 四人

一、二百石 同 五人

一、御家中出銀、御馬乘・御鷹師・與力・御算用之者・御歩行、唯今迄出銀惣並に出請取候時分者、少分に有之候。向後出取一統可有割符。但、百石より内六十石迄者百石之當り、

十石に付廿目おとりに可被下候事。

右之通被仰出候條可被得其意候。以上。

寛文七年二月廿三日

横山 外記

岡嶋 甚七

青山 織部

奥村 内匠

御算用場

### 一〇 御使者駄賃之儀改御定

覺

一、他國御使駄賃銀被下唯今迄之御定、上道一里に五分三厘宛、今度之御定二割増にして六分四厘。

一、同斷下道一里に五分宛、今度之御定二割増にして六分。

一、御國之内御使駄賃銀被下、唯今迄之御定一里に三分五厘、今度之御定二割増にして四分二厘

已上

正月八日

### 一一 江戸御供並御使勤候者

#### 届出之儀觸

御組中江戸御供人々指出し不及、各様より、御書出案紙進上仕候間、向後ケ様に御調被成可被下候。并三月替り茂如斯御座候。

一、地・他國共御使御用罷越面々、跡々者人々指出に、各様御添書被成候得共、不及御添書、人々指出迄に而割符可仕候。罷歸候而茂、是又御添書不及候間、御組中可被仰渡候。以上。

壬二月廿四日

津田 宇右衛門

岡嶋 五兵衛

本多 安房様

横山 左衛門様

長九郎 左衛門様

前田 對馬様

奥村 河内様

奥村 因幡様